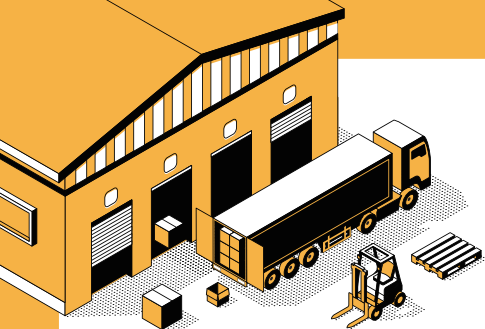




# 今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進により、物流現場改善は大きなテーマ。ただし、無計画に多額の投資を行ってもなかなか成果は得られません。ここでは、物流現場の課題である労働力不足を知恵と工夫、IT・DXの導入で乗り切っていく改善事例を紹介していきます。

## 知恵と工夫による事例

### 「検収チェックリストの作成」

#### 課題

入荷時の検収作業では、複数の確認項目を「その場の記憶や感覚」に頼って行っていた。そのため確認漏れや記録の抜けがたびたび発生し、後工程でのトラブルにつながるケースも多発していた。

#### 対策

入荷検収用のチェックリストを作成。納品書との照合内容（数量・品番・外装状態など）を網羅的に記載し、それを現場で作業員が「目で見て確認し、手でチェックする」運用に変更。

#### 効果

- ・確認漏れがなくなり、作業の正確性が飛躍的に向上。
- ・作業時間の短縮やミスによる再作業、再確認が削減。

#### 〈改善前〉

忙しい時間帯や作業員の入れ代わりがある場合には、確認作業の質が安定せず、属人化の課題も顕在化していた。

#### 〈対策・効果〉

チェックリストにより、誰が作業しても一貫した手順で確認できるようになり、確認作業の標準化と見える化を同時に実現。

これまで記憶や感覚に頼り、確認事項が不明確であったが、チェックリストを活用することで確認漏れを削減。



## ITを活用する事例

### 「積付管理システムの導入」

#### 課題

荷物の積載時には荷崩れ防止や重量バランス、荷物同士の干渉を避ける必要がある。そのため作業者が都度その場で判断しながら試行錯誤を重ねるケースが多く、結果として積付作業に過度な時間と労力を費やしてしまっていた。

#### 対策

荷物のサイズ・重量・形状の情報をもとに、最適なパレット配置や荷台への積載パターンを自動で提案してくれる積付管理システムやアプリケーションを導入。

#### 効果

- ・積付にかかる試行錯誤の手間が大幅に削減され、作業時間の短縮に成功。
- ・経験の浅い作業者でも一定の品質を保った積載が可能となり、現場の安定運用に寄与。

#### 〈改善前〉

積付作業に過度な時間と労力がかかる上、積載ミスによる積み直しが発生した場合、作業全体の生産性が著しく低下していた。

#### 〈対策・効果〉

積付管理システムの導入により、作業者は現場で都度判断する必要がなくなり、事前に積付計画を立てて準備することが可能に。また、作業の属人化を防ぐことにもつながっている。

積載パターンの自動提案により、トラック1台あたりの積載作業に要する時間が平均で数十％削減。



鈴木 邦成（すずき くにのり）

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士（工学）（日本大学）。早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に「物流DXネットワーク」（NTT出版）、「入門 物流（倉庫）作業の標準化」（日刊工業新聞社）。